

エントリー学校名：富山県立南砺福光高等学校

活動名：ダブルワークの推進（光高から発信する働き方改革）

解決すべき課題：働き方について、新しいアプローチで改革を推進する必要がある

1. 本校は2年後に学校再編による閉校を迎える。生徒と共に教職員が減っていく中で、業務量は総じて変わらないのが現状である。マンパワーが不足していく中で、多忙化を解消することは切実な問題である。
2. 日本人の働き方の特徴として、「労を厭わない」「迷惑をかけない」「一人で抱え込む」等が挙げられる。この組織文化が、労働時間をむやみに増やし、孤独感・多忙感・無力感を強める原因となっている。
3. 働き方改革は単に勤務時間を短縮するだけでなく、労働そのものに充実感・達成感が生まれるものでなければならない。したがって、教職員全員が一体となり、心地よい働き方を研究する必要がある。

目標・方針：ダブルワークの推進によって、働き方のスタイルを内面から変革する

昨年度出退勤記録の結果

- 時間外勤務の月平均が 45 時間を越えた教員は全体の 66%
- 時間外勤務が多い教員 5 名の月平均は 85 時間 51 分、少ない教員 5 名の月平均は 21 時間 7 分、その差は 64 時間 44 分にも上った。

原因と分析

- 生徒のために「労を厭わない」精神で、十分すぎるほど時間をかけている。
- 時期や内容によっては、仕事の一部の人に偏ることもあり、「迷惑をかけない」「一人で抱え込む」といった日本の組織文化が表れている。

方針

- いつでも、誰とでも、ささいな事でも、気軽に話し合い、協力し合う習慣を徹底し、量的にも精神的にも、一人一人の負担を減らすことが重要である。

研究目標 → 本校の仕事の流儀を『ダブルワーク』と名付け、効率が良くかつ心地よい働き方を研究し、全員の勤務時間を大幅に減らすとともに、充実感・達成感に満ちた職場作りを目指す。

活動内容：①事前準備→②ダブルワークの提唱→③実践→④評価・検証→⑤改善実施

① 事前準備その1・・・全員との対話（スタッフ・マネジメントの重要性）

新しいプロジェクトを理解してもらうには、まず管理職への信頼がなければならない。ダブルワークを提唱する1年前から、教職員一人一人と、まんべんなく、毎週必ず1回は対話することを実践した。

事前準備その2・・・ワーキンググループの開催（組織マネジメントの重要性）

月1回、希望参加制で開催。2年後の閉校を見据えて、学校行事の見直し、地域交流の活性化、新たな学びの導入、教職員組織のあり方、職場環境の改善など、様々な思いや不安を共有した。

② ダブルワークの提唱

1年の事前準備の期間を経て、今年度の始めに職員会議でダブルワークを提唱。ダブルワークの定義、意味、やり方、予想される効果を全員で共有した。 <図1>

③ 実践

実践途中で、全員にアンケートを取り、今後の方向性を探った。 <グラフ1>

④ 評価・検証

3つの観点（・本校独自のアンケート・出退勤調査・ストレスチェック集団分析結果）から評価し、取り組みを検証する。 <グラフ1> <表1> <表2> <グラフ2>

活動の成果：3つの観点について、それぞれ下記の通り成果が表れた。

- ① 独自アンケートの結果から、ダブルワークにより、多忙感を押さえ、やりがい感を増やすことができた。
- ② 出退勤調査の結果から、昨年同月と比較して、時間外勤務時間の平均および格差が減少した。
- ③ 事前準備の効果により、ストレスチェック集団分析において、昨年より優れた結果となった。

アピールポイント：ダブルワークはペアワークではない

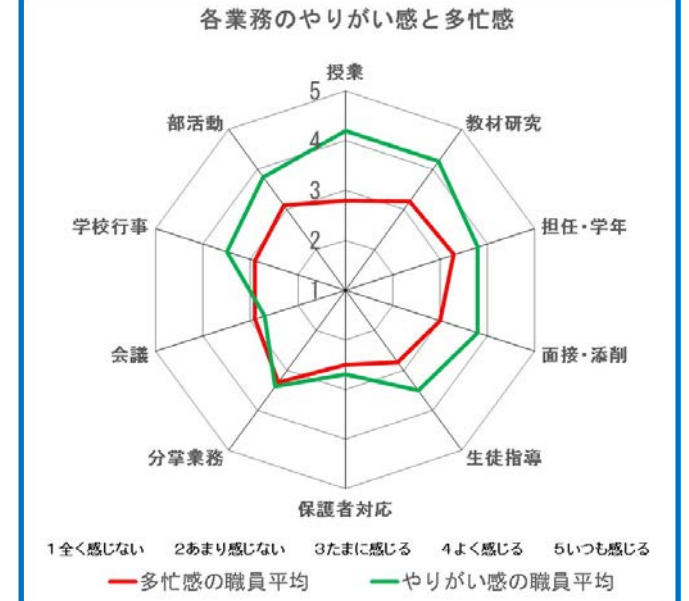
どんな仕事もペアを組めばよいわけではない。一人でする方がはかどる事もある。テニスやバドミントンのダブルスを想像すれば分かりやすい。ラリーでは決して交互に球を拾うのではなく、自分が7割球を拾って勝負するつもりでないと勝てない。残りの3割をパートナーに助けてもらい、絶妙なコンビで試合を制するのがダブルスである。

若い世代は、昔と比べ、チームで物事に取り組む経験が少ない。いきなりチームで仕事をするといっても自分の果たす役割が見えない。まずはダブルスで仕事をする習慣をつけ、その積み重ねと広がりによって、自然とチーム力がついていく。これが、ダブルワーク（本校の仕事の流儀）である。

<図1>

- ダブルワークで仕事を快適にこなすための七箇条
- 1 この仕事はシングルスorダブルスかを見分けよう
一人で仕事を早く終わらせるのか？二人の方が効率的なのか？仕事を始める前にちょっとだけ考えてみましょう。
 - 2 新しい試みにはダブルスを活用しよう
シングルスに固執すると前年踏襲だらけになってしまう。少し変えた方が・・・そう思った時は、隣の人のちょっとしたアイデアが実は大きいものになったりします。
 - 3 1つのプロジェクトの中でも使い分けよう
前半は一人、中盤は二人、後半はまた一人で・・・企画は一人、作業は二人で・・・渉外は二人、とりまとめは一人で・・・ などなど。
 - 4 なるべくいろいろな人とダブルスを組もう
同じ分掌や学年の人とはもちろんですが、普段あまり一緒に仕事をしない人と組むと、新しい自分に出会えたりします。ダブルスの輪が広がり、チームの絆が強くなります。
 - 5 今自分が取り組んでいる仕事について聞いてもらうことから始めよう
ペアで仕事するなんて面倒だと思ったら、今、自分はこんな仕事をしているのだと、近くの人に打ち明けるだけでもよい。精神的な支えになるだけでもダブルスです。
 - 6 隣の人をどんどん使って、使われよう
隣の席になったのも何かの縁。どんどん使いたしましょう。使われましょう。日本人は一人で抱え込むか、集団の中に埋まるかを好む民族だそうです。そんなの悲しいと思いませんか？
 - 7 素敵なダブルワークを上げよう
ダブルワークでナイスジョブができれば、それを周りの人達に、転勤先の人達に、次の世代の人達に伝えていきましょう。そんな思いは、きっと生徒達にも伝わります。

<グラフ1>



<表1>

出退勤調査における時間外勤務時間

	R元年度	R2年度
6月平均	69時間55分	46時間04分
(6月格差)	95時間05分	54時間05分
7月平均	63時間20分	54時間49分
(7月格差)	92時間25分	72時間13分

* 月平均は、本校教職員の平均
 * 月格差は、上位5名平均と下位5名平均の差



<表2・グラフ2>

